

バードリサーチ ニュース

準備号No.1



2004. 7. 12.

Photo by Uchida Hiroshi

バードリサーチは、
特定非営利活動法人(NPO)
に申請中です！

設立の趣旨

経済発展にともない森や湿原などが失われ、絶滅または急減する生物が増えています。国連地球環境サミット以来、生物多様性の減少が国際的に問題視され、その解消が急務となっています。その反面、一部の種は個体数を回復あるいは増加させ、人間活動との軋轢が生じ、その解消も求められています。

このような問題を解消し、人と自然が共存していくためには、各生物種の分布や生態といった基礎情報を収集して現状を把握し、有効な対策を検討していく必要があります。そのためには、多くの人々が基礎情報の収集に参加し、それを集約していく体制をつくることが重要です。そこで、私たちは鳥類の調査研究をとおして、この課題に貢献するため、特定非営利活動法人バードリサーチを設立することを考え、設立の準備に入りました。



バードリサーチは、みなさんと一緒に次の活動を行っていきます！

A. 鳥類生態や自然環境の調査・解析・データベース

鳥類の分布、生態、行動などについて、会員参加型の調査や専門的な基礎研究を行います。また、その調査結果を、統計やGIS(地理情報システム)などの技術を用いてデータを解析し、情報を簡単に取り出せるようなデータベースを作成します。

B. 基礎調査に基づく保全施策の立案と提言

A. の活動で得られた基礎的な情報をもとに、鳥類の保護や軋轢の解消のための対策を提案します。行政等に対して要望や提言を書面で提出することもあります。さまざまな事業や委員を請け負う中で働きかけていくという地道な部分もあります。

C. 新しい調査手法の開発

科学技術の進歩により様々な機械が小型化し、デジタル情報を簡単にやり取りできるようになってきました。まだ、自然環境の調査に応用されていない技術を開発し、企業やその他の団体などとの共同作業によって、新しい調査手法を開発します。

D. 普及啓発とアマチュア研究者のレベルアップ

研究誌の発行、ニュースレターの発行、講習会などの開催、ホームページの開設などによって、自然の大切さや調査研究の面白さを伝え、鳥類の保護等に重要な貢献を果たす優秀なアマチュア研究者の層を広げて、研究者のレベルアップとネットワークの形成を目指します。

活動報告

東京都の鳥類の生息状況の変化 - GISによる解析 -

植田 睦之

全国の鳥類分布状況のデータ収集と、その分布状況の変化の原因についての解析をバードリサーチの研究の1つの大きな柱にしたいと考えています。

その解析のモデルケースとして、1973～1978年、1993年～1998年に東京都により鳥類分布状況調査が行なわれていて、その当時の植生情報も完備されている東京をモデル地区として、現在さらなる分布情報の収集と解析を行なっています。

解析の結果、以下のようなことがわかってきました。

1. 分布の広がった鳥，縮小した鳥

1970年代と90年代の分布状況を比較すると、猛禽類、外来種、小規模な緑地でも生息できる疎林の鳥の分布が広がった反面、夏鳥や河原や草原の鳥の分布が縮小していることがわかってきました。

<p>猛禽類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オオタカ ・ツミ ・チョウゲンボウ 	 <p>疎林の鳥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コゲラ ・シジュウカラ ・ヒヨドリ ・メジロ
<p>外来種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソウシチョウ ・ガビチョウ 	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハシブトガラス ・ハクセキレイ 

UP ↑

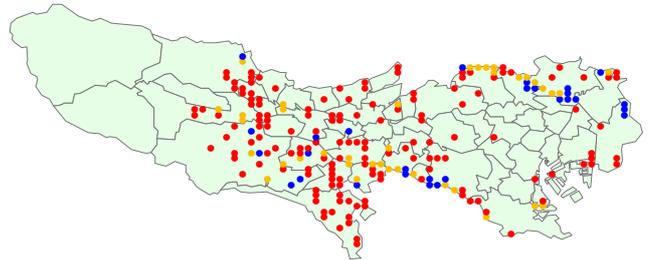
<p>DOWN ↓</p> <p>夏鳥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サシバ ・アオバズク ・アカモズ ・サンコウチョウ 	<p>草原の鳥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒバリ ・ホオジロ ・モズ 
<p>河原の鳥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イソシギ ・シロチドリ ・イカルチドリ ・コアジサシ 	<p>分布は変わらないが 個体数が減った鳥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツバメ ・スズメ 

2. 分布変動の原因

ある鳥種が、その場所にいたか、いないかの情報と、その植生情報をもとに、判別分析という手法を使って、それぞれの鳥種の分布に影響する要因を調べています。そしてそれがその種の分布変化に影響しているかどうかについて調べています。

ヒバリの分布変動の原因

1970年代と1990年代を比較すると、見られなくなってしまったメッシュ(赤い丸)が150メッシュ、出現状況に変化のないメッシュ(黄色)が38メッシュ、新たに見られるようになったメッシュ(青)は28メッシュと急激に減少していました。



1970年代、90年代の分布状況と環境を比べたところ、ヒバリの生息のためには、畑、草原、水域が重要だということが明らかになりました。この傾向は両年代ともに同じでしたが、1970年代は畑への依存度が最も高く、1990年代は、依存度が最も低くなっていました。1990年代には畑の面積が急激に減少しており、その減少した地域は、ヒバリが減少した地域と一致していました。この畑の減少がヒバリの減少に大きく影響していると考えられます。

サシバの分布変動の原因

1970年代、サシバは22メッシュで記録されたのに対し、1990年代には2メッシュでしか記録されませんでした。1970年代のデータをもとに、サシバの生息に必要な環境をしらべたところ、樹林と水田が接している場所が長いことが最も重要で、続いて樹林の面積が広いこと、樹林と草原が接している場所が長いことが重要なことがわかりました。

1970年代から1990年代にかけて、水田の面積は、大きく減少し、サシバが生息していた地域の環境は大きく変化してしまいました。この水田の減少に伴う樹林と水田が接した場所の減少が、サシバ急減の最大の要因と考えられます。



Photo by Uchida Hiroshi

1990年代の調査から10年が経ちましたので、鳥の分布状況の調査を今年からはじめました。
調査に興味のある方の参加をお待ちしています。
植田 (mj-ueta@bird-research.jp) までご連絡ください！

カワウプロジェクト

チームリーダー 加藤 ななえ
高木 憲太郎

カワウの分布拡大と個体数の増加が、全国的に社会問題となっています。特に内水面漁業者からの被害を訴える声が多く、鳥類としては初めてのことで、昨年度特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル(カワウ編)が作成され、今年度から各都道府県などで計画が策定されるようになります。研究の遅れが指摘されている中、カワウの現況を把握・分析し、「カワウ対策」自体を評価するために、モニタリングが重要になってきます。

関東のカワウのモニタリングは、1994年以来(財)日本野鳥の会が続けてきた調査ですが、10年の節目となる2004年3月の調査を最後に終了されました。そこで、2004年度よりこの調査はバードリサーチで引き継がせていただくことになりました。

バードリサーチでは、全国的なカワウの動向についても、データの収集と情報共有のシステムを作り、データセンターの役割を果たしていきたいと考えています。

**関東モニタリング 2004年7月**

2003年12月に関東で確認されているねぐらは、以下のようになっています。これらのねぐら全てで一斉に調査を行います。

茨城県10箇所 栃木県3箇所 群馬県3箇所
埼玉県6箇所 千葉県10箇所 東京都10箇所
神奈川県12箇所

ねぐらの情報を持っていらっしゃる方、もしくは、調査に興味のある方は、加藤(kato@bird-research.jp)までご連絡ください！ご協力をお願いいたします。

会員募集中！

鳥の調査研究に興味がある方、一緒にバードリサーチの活動をしていただける方、バードリサーチに入会しませんか？バードリサーチでは会員を募集しています。会員の年度は1月から12月になります。最初の年度の2004年12月まではお試し期間として、会費は無料です。ニュースレター等はメールやホームページを使った配信のみにになります。インターネット環境のない方は申し訳ありませんがサービスを受けることができません。

入会希望者は、下記の項目について可能な範囲で記入しE-mailで、info@bird-research.jp までご連絡ください。

(まもなくホームページからも入会の申し込みができるようになります。 URL: <http://www.bird-research.jp> (準備中))

- | | | |
|------------|--------------------|-----------------------|
| ①名前: | ⑤インターネット接続環境: | ⑨FAX: |
| ②よみがな: | (ダイヤルアップorブロードバンド) | ⑩所属: |
| ③E-mail 1: | ⑥郵便番号: | ⑪おもな研究対象:(鳥の種, テーマなど) |
| ④E-mail 2: | ⑦住所: | ⑫バードリサーチでしたいこと: |
| | ⑧TEL: | ⑬その他 |

嘱託研究員制度

バードリサーチの嘱託研究員制度は、会員参加型の調査などにおいて地域の核になって活動してくれる方や、個人的な好奇心や興味をもとに自主的にテーマを持って鳥類の調査研究などを行なわれている方を、客員として迎え入れる制度です(給料は支払われません)。バードリサーチの主旨に沿うものであれば、自由にプロジェクトを企画・主導していただくことができます。

現在登録していただいている5名の嘱託研究員をご紹介します。詳しい自己紹介はHPをご覧ください。

大畑孝二 Ohata Koji

主な活動拠点: 愛知県豊田市
主な調査研究対象・テーマ:
カモ類保護のための冬期湛水水田, 雑木林の野鳥観察

神山和夫 Koyama Kazuo

主な活動拠点: 神奈川県丹沢
主な調査研究対象・テーマ:
丹沢自然再生事業調査のデータベース開発

田尻浩伸 Tajiri Hironobu

主な活動拠点: 石川県加賀市
主な調査研究対象・テーマ:
ガンカモ類の保全のための諸活動, カワウをはじめとする石川県の鳥類の生息状況調査

濱外晴美 Hamasoto Harumi

主な活動拠点: 東京都葛西臨海水族園
主な調査研究対象・テーマ:
エトビリカの普及と繁殖生態の研究, カワウ調査のボランティア

平野敏明 Hirano Toshiaki

主な活動拠点: 栃木県
主な調査研究対象・テーマ:
ツミやチュウヒ類やサシバの生息状況と環境利用, オオジシギやヒクイナやホオアカの生息状況の変化

スタッフ紹介

代表 Chairman of the Board of Directors

植田睦之 Ueta Japonensis Mutsuyuki

日本野鳥の会で12年研究員を務めたのち、バードリサーチを立ち上げました。大学生時代にツミの生態研究をはじめたのが最初の研究で(今も継続しています)、その後、希少鳥類の生態調査や渡り鳥の衛星追跡、オオワシの個体群動態の研究、鳥類の分布と生息環境の関係の解析などをしてきました。

バードリサーチでは、皆さんとともに鳥の分布の調査をして、環境の変化の関係の解析をさらに進めるとともに、研究誌の編集をしていきたいと思ひます。



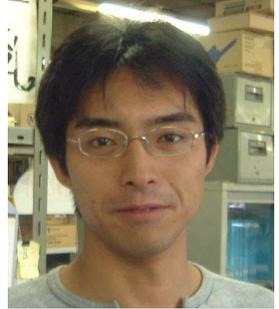
中国人にナメラれないように(?)、去年のクロツラヘラサギの調査の時に髭を伸ばし始めた。

副代表 Vice-Chairman of the Board of Directors

高木憲太郎 Takagi Kentaro

高3の時にカラスの逞しさと奥深さに惹かれて、“動物の行動や生態がどのように進化してきたのか?”ということに興味を持ち、大学院ではハシボソガラスの採食行動を研究しました。その後は、日本野鳥の会に就職し、カワウの保護管理や衛星追跡などの調査に取り組んできました。そして、今年、他の2人と一緒にバードリサーチを立ち上げることにしました。

バードリサーチでは、皆さんの調査のお役に立てる情報を提供し、皆さんと一緒に鳥類の調査研究やその面白さを伝える活動をしていきたいと思ひます。



カラスのように色が黒いとからかわれる。アレルギー性鼻炎を治すためレーザー治療を受けたがイマイチ良くならない。



カワウPJチームリーダー Leader of the Cormorants Project

加藤ななえ Kato Nanae

趣味で始めたバードウォッチング歴は、それなりに長いのですが、テーマを持って本格的に調査研究を始めたのは、1995年夏にカワウの美しさと力強さに魅せられてからです。専門的に鳥類学を勉強してきていません。ただ、ひたすら観察して記録をとり、そこからどンドンわいてくる「なぜ?」を解明すべく、試行錯誤している状態です。

カワウ大好き。カワウのデコイに隠れる照れ屋さん?カワウの次に好きなのは、ビール!

その意味では、私と同じアマチュア研究者の良き理解者となる可能性を秘めているかもしれません、ね?

お世話します。お世話にもなります。

設立発起人

- ・植田睦之
- ・高木憲太郎
- ・加藤ななえ

設立賛同者

- ・石田 健 (東京大学大学院・生圏管理学講座助教授)
- ・上田恵介(立教大学・理・動物生態学研究室教授)
- ・金井 裕 (財団法人 日本野鳥の会主任研究員)
- ・金子正美(酪農学園大学・地理情報学研究室助教授)
- ・佐藤達夫(NPO法人 行徳野鳥観察舎友の会)
- ・羽山伸一(日本獣医畜産大学・野生動物学教室助教授)
- ・樋口広芳(東京大学大学院・生物多様性科学研究室教授)
- ・平野敏明(日本野鳥の会栃木県支部)
- ・福井和二(財団法人 日本野鳥の会囑託研究員)

バードリサーチニュース 準備号No.1

2004年 7月 12日発行

発行元: バードリサーチ(特定非営利活動法人申請中) 発行者: 植田睦之

今回の編集者: 高木憲太郎

E-mail: info@bird-research.jp

URL: http://www.bird-research.jp (準備中です。しばらくお待ちください。)